



営農NEWS



水稻の斑点米カメムシ類の防除を徹底しましょう

県内における水稻の品質低下（等級落ち）の主な原因としては、乳白米など障害粒の発生とカメムシ類による斑点米の混入です。これらはいずれも高温の年に、発生しやすい傾向にあります。

病害虫発生予報 7 月号によりますと、斑点米カメムシ類の発生時期は平年よりやや早く、発生量はやや多いと予想されています。

本県の斑点米カメムシの主要種はクモヘリカメムシで、その他、イネカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメなどが関与すると考えられています。

なお、気象予報（7 月 24 日発表）によりますと、向こう 1 か月の気温は平年に比べ晴れの日が多いと予想され、発生を助長する条件であると考えられます。

圃場の出穂期をよく確認しておき、出穂後の下記の防除適期に斑点米カメムシ類の防除を必ず実施してください。

なお、カメムシ類の生息を確認する場合は、日中の高温期は避けて、夕方や早朝など涼しい時間帯に水稻の穂や株元などを十分注意して観察してください。

<薬剤防除のポイント>

1. 本田に侵入したカメムシ類の成虫を対象とした場合、防除適期は穂揃期です。
2. 斑点米カメムシの幼虫を対象とした場合、防除適期は出穂 10～15 日後頃です。斑点米を抑制するためには、とくにこの新幼虫を対象とした防除が最も重要です。

なお、その後はカメムシ類の発生を観察しながら、必要に応じて追加防除を行いましょう。

3. 出穂が周辺よりも早い水田、ヒエ等の雑草が多発している水田では、成虫の飛来が集中しやすい傾向があります。また、出穂の遅い水田では、周辺の水田で増殖した新成虫が侵入してくることがあります。これらの水田では特に十分な注意が必要です。
4. 防除を行う際には、収穫前日数などの農業使用基準に十分に注意してください。また、ミツバチへの被害を軽減するために、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前 8 時～12 時まで）の農薬散布は避けてください。

表 1 水稻 カメムシ類の主な防除薬剤（平成 27 年 7 月 29 日現在）

薬 剤 名	希 釈 倍 数	使用時期 / 使用回数
MR. ジョーカーEW	2,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内
MR. ジョーカー粉剤DL	3～4 kg	収穫 7 日前まで / 2 回以内
スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内
スタークル粉剤DL	3 kg	収穫 7 日前まで / 3 回以内
キラップフロアブル	1,000～2,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内
キラップ粉剤DL	3～4 kg	収穫 14 日前まで / 2 回以内
スミチオン乳剤	1,000 倍	収穫 21 日前まで / 2 回以内
スミチオン粉剤3DL	3～4 kg	収穫 21 日前まで / 2 回(出穂前は 1 回)以内

注) 各薬剤の液剤または粉剤の、いずれかを使用してください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040